

【様式1】

自己評価書

四日市市立 橋北こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	コミュニケーション力のある幼児の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いが通らないと、泣いて訴える姿があった。子どもの表現する言葉、しぐさ、行動を捉え「こんな気持ちだったんだね」等、温かい肯定した言葉がけをしながら子どもの気持ちをしっかりと受け止めるようにした。 ・「できない」「やりたくない」という姿があった。できた時だけでなく、やってみようとした過程を大切にしていくなかかわりや言葉がけをするようにした。 ・また、どうしてほしいのか、何が嫌なのか等、保育教諭が問いかけたり言語化していくようにした。そのことで、自分が嫌だと思ったこと、どうかと感じたことを相手に伝え、相手の話を聞こうとする姿がみられるようになってきた。保育教諭には言えるが、友だちにはなかなか言えない姿もあるので、今後も子どもが安心して発信できるよう、信頼関係づくり、クラスづくりに取り組んでいく。 	
重点目標 2	幼児の姿・発達にあった教育・保育の工夫	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがやってみたいと思えるように、保育教諭が環境設定をしたり、遊びのしかけをしていったりした。また、子どもと一緒に遊びを楽しみ、子どもが何を楽しんでいるのかを一人一人捉えていくように努めた。 ・遊びや生活の中で、経験重ね、様々な行事を経験し、自信がついてきたことで「楽しい」「やってみよう」と生き生きと動き出す姿が増えてきた。 ・子どもの興味ある遊びや発達に応じた遊びの見極めをしながら、それに適した教材を保育教諭が準備したり、子どもと一緒に考えたりしながら遊びを展開するようになった。学校ごっこ、お店屋さんごっこ、動物園ごっこなど、やりたい遊びを実現していく楽しさ、友だちとイメージを合わせて遊ぶ面白さを感じることができた。今後も保育教諭間で話し合い、幼児理解を深めていく。 	
重点目標 3	小中学校、地域との交流の充実	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、小中学校との交流を行うことができた。憧れや親しみの気持ちを持ち、子どもたちにとって豊かな経験となった。 ・また、近くの三滝公園へ何度か散歩に出かけ、自然の移り変わりに気づいたり、ドングリなどの自然物を遊びに取り入れて楽しむことができた。 ・今後は地域との交流や、園外保育を計画的に取り入れて、地域の人や自然と触れ合える機会をさらに持つようにしていく。 	
重点目標 4	子育て支援活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な地域からやってくる家庭の状況を把握することに努めた。コロナ禍ではあるが、子どもの日に年長児が作ったかぶとのプレゼントをしたり、園の避難訓練と一緒に参加してもらったりして交流をした。 ・園の保護者に日々の姿を伝え、子どもの成長をともに喜び合える関係づくりを心掛けてきた。早朝、長時間の送迎の時には話せないこともあるが、園全体で一人一人の子どもを見守れるように、また保護者が安心して子育てができるように職員間で連携をとるよう努めていく。 	

2 改善方針

- ・園づくりビジョンや全体的な計画について、園内研修で定期的に取り上げ、目の前の子どもの姿と照らし合わせながら、どのような力となっていくのか、どのような援助が必要か、職員間で幼児理解を深めていく。
- ・子どもが主体の遊び、幼児期に育てたい10の姿、非認知能力の育成について日常の子どもの姿を例にあげながら学ぶ機会を作っていく。また、ドキュメンテーションなどを利用して、子どもの姿や保育について考えるなど、研修の方法を工夫していく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 塩浜こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	健康な心と体の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が、子どもたちと一緒に、体を動かし楽しく遊ぶことで、身体を動かす楽しさや心地良さを伝えられた。 ・毎日の朝の体操や冬季のマラソン、サーキット遊びや縄跳び、集団あそびなど繰り返し、みんなで取り組むことで、子どもたちが自ら体を動かして遊ぶ姿が増えた。また、友だちの姿を見てやってみよう、できるようになりたいという姿にもつながった。しかし、園外に出る機会が少なく、歩く力や持久力の育成にはつながらなかったため園外保育を、計画的に入れていく必要がある。 ・コロナ感染症の関係で食育活動（園内で収穫したものを園児の前で調理する）などの活動ができなかったため、子どもたちがさらに食に興味を持ち、また健康な体づくりとの関係に気づける工夫が必要。 	

重点目標2	遊びを通した『学び（心がワクワクする）』の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人の言葉やつぶやきに耳を傾けながら遊びが広がるように関わった。また、安心して思いが出せる信頼関係を築けるように見守っていた。 ・年間を通して日頃の遊びや行事を、子どもたちが楽しめるように工夫し、まずは保育者が子どもと共に楽しむようにしたが、子どもたちがその取り組みに対し、自分から考えたり工夫したりすることが少なかった。子どもたちが自分たちで考え試行錯誤できる環境整備や、保育者自身が子どもの思いをとらえる力を付けていく必要がある。 	

重点目標3	かかわり合おうとする力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者が一人一人の幼児と向き合い、気持ちを受け止めたり、認めたりしていくことで自分の気持ちを表現し伝えようとする姿が増え、友だちやクラスみんなで互いを認め合おうとする姿に繋がった。 ・人権の視点から子ども同士のかかわりや保育者と子どもとの関わりを振り返り、学びを保育に活かす。職員全体で学びを共有できるよう働きかける必要がある。 ・異年齢で自然な交流が持てるように保育内容を工夫した。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・低年齢から身体全体を使ったリズム遊びや遊具を使った遊びなどを研究し、体幹を鍛えられるような遊びを計画的に取り入れていく。 ・子どもたちが、どんなことを楽しみ、どの様なイメージを持っているかなどを理解し、子ども同士が繋がっていく実践記録をとり、職員間で話し合う研修を計画的に行う。 ・課題となることを、園内研修や打ち合わせなどで、計画的に話題にし、改善に向けて話し合うことが必要。 ・他園の情報など新しいアイデアも取り入れていく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 保々こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	夢中になって遊ぶ《学ぶ》教育・保育内容の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・友だちと自ら遊びを深めていくためには保育教諭も環境の一部として参加し、共に遊びを組み立て楽しさを共有していった。・子ども達の興味関心から子どもたちの描くイメージの把握に努め、それに見合う素材や道具を準備するようになった。保育教諭も遊びに参加し、子ども達と一緒に作り上げられるような支援を継続したことで子ども達の自信を育てることができた。・5歳児は、少人数のグループで意見を話し合う取り組みを継続したことで、人には様々な思いがあることを知ることにもつながった。来年度は具体的な遊びの交流を取り入れるなど、子ども達が夢中になって遊び学べる保育内容を考えられるような研修をしていく。	
重点目標2	健康で安全・安心な生活の保障	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・感染症防止対策については、生活の中で自らが気をつけるようになってきた。自分で気付き、手洗い、うがいをしたり、仕切り板の設定なども自分から行うようになった。今後も周りの大人が模範を示し健康維持に努めたい。・子ども達が自分で考え準備をして遊びを展開できるようにしたことで、子どもたちなりに危険を感じ、危険を回避するための方法や何の用具が必要なのか子どもたち自身が気づくようになってきた。今後も一緒に活動しながら、周りの大人も安全面への配慮を十分に行っていく。・遊びの中で、体力がつくことを子どもたちと共有し、様々な身体のつかいかたを楽しみながら経験できる遊びや活動を取り入れた。進級時は、よく転んでいた子どもたちもバランス感覚が育ち、長い距離を持続して歩くことができるようになった。一方で姿勢の保持が難しい場合もあり、引き続き遊びの中で力をつける方法を取り入れていく。	
重点目標3	特別支援教育・保育の充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・個別の指導計画を作成し、一人ひとりに応じた支援が検討できるように、毎月支援について見直す会議を行い意見交流を行った。子どもの姿を多面的に捉えながら、専門機関とも連携することで途切れのない支援が行えるように心がけてきた。様々な保護者の思いや悩みに寄り添い、関係機関との連携を続けていく。・あけぼの学園交流やあけぼの巡回研修、保育所等訪問事業などを通しての学びを職員間で共有し保育における手立てや配慮の見直しをして実践につなげることができた。今後も子どもたちの姿からどのような手立てや遊びや生活の環境が必要であるのかを考え、よりよい支援をめざしたい。	

重点目標 4	小・中・高・プラザ・地域・保護者との連携と協働	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度コロナ感染対策を講じながら、保々地区「育ちのプログラム研修」の一環として公開保育・授業・事後研修を行った。「6視点」を基に、日頃の姿やエピソードを持ち寄りグループ検討をすることで子ども達の今後の成長を見通した話し合いができた。話し合いを通して、多面的な支援の方法や生きる力の基礎の育成の手立てを考えあうことができた。ただ、討議の時間が短く討議内容や意義の深まりの点では課題が残るため、来年度に向けて検討の必要がある。 ・園内で2回保護者学習会を開催した。1回目は保々地区が取り組む「育ちのプログラム」の成り立ちや園内の取組について保護者と確認した。2回目は講師を招き「性教育について」人権の視点で考えることができた。保護者がグループでの意見交流の時間をもち、疑問や不安に思うことを共有する機会にもなった。 ・朝明高校との畑体験、保々中学校の保育実習、小1交流が再開された。世代を超えたふれあいの体験を通して、人との交流を今後も継続していく。 	

2 改善方針

- ・今年度の反省をもとに、園内研修の年間計画や年齢別打合せの検討事項を今年度内に作成し、来年度の保育・教育計画に反映させていく。
- ・仲間づくりを大切にしたクラス作りをめざし、日々の保育の振り返りを行いその学びを職員間で共有して来年度の活動計画を立てていく。
- ・今後は、子どもの実体験を通じた学びの場が増えると考え、子どもの発達に合わせて見通しを持った保育・教育計画を立案し、子ども達の体験を通じた豊かな発達の保障をめざす。
- ・保育教諭が子どもとの関わりの中で子どもの思いやイメージを受け止め、子どもと共感し遊びを展開したい。子どもと共に遊びを発展させていける仕組みを創造する保育をめざし、積極的に研修に参加し、教材研究を行っていく。

自己評価書

四日市市立 楠こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	基本的な生活習慣の自立 健康な身体づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・入園.進級当初は不安や戸惑い、恥ずかしさなどにより子どもからの積極的な挨拶は一時的に少なくなったが担任や友だちとの関係が構築されるにつれ、習慣づいてきた。 ・園で友だちや担任と過ごすことを楽しんでいる子どもが多く、日々の丁寧な指導や援助、友だちからの励ましや影響により生活習慣の自立を促すことが出来た。しかし、中には個別に家庭との連携や協力が引き続き必要な子どももいる。 ・昨年度の経験を活かして2階の保育室や時間を分けての園庭利用などの環境ではあるが、身体を動かして活動できるように雨天時のホール活用や小学校運動場の利用等、工夫して過ごしてきた。体を動かすことが好きな子どもが増え、運動能力の向上にも繋がった。 	

重点目標2	夢中になって遊ぶ活動の充実	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状況、年齢や発達、興味・関心に合わせて教育課程を考え、夏祭りや動物園ごっこなど5歳児が積極的に異年齢の幼児にも働きかけ、招待することで園内での楽しみや充実感、達成感などを味わうことが出来た。3, 4歳児は年長児に対する憧れや尊敬の気持ちを抱く機会にもなった。 ・ごっこ遊びや鬼遊びでは保育者が子どもと一緒に共感して遊ぶことで遊びを広めたり、意欲を高めたり、興味を持続して活動することが出来た。 ・子どもの興味・関心に合わせて環境を構成し、新聞紙や空き箱などの材料や遊具などを整えることで子ども自身が意欲的に考え、遊びを始めることが出来るようにした。 	

重点目標3	一人一人が安心して過ごせる居場所づくり	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・担任同士（特に学年同士）が日常的に話し合い、連携して子どもや保護者の思いや願いを受け止め、保育にあたってきた。当初は子どもや保護者とうまく意思疎通が出来ないこともあったが話すうちに信頼関係を築くことが出来、親子ともに園が安心できる場になった。 ・子育てや家庭生活などに不安や葛藤を抱えている家庭もあるので、引き続き相談に乗ったり必要な支援を考えたりしながら適切なかわりをした。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・園では嫌いな食べ物も食べようとする子どもが増えたが、家庭では口にしない子どもも多い。栄養面や身体づくりの面から大切さを知らせ、食の幅が広がるような取り組みをしていく。 ・コロナ禍の為、室内で触れ合う行事やイベントなどが開催出来なかった。サッカー教室など戸外での活動は新たに開催し、教室後は子ども達はサッカーに興味を持って遊ぶ姿が見られた。今後も、出来る事を工夫し、前向きに取り組んでいく。 	
--	--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 神前こども 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	遊びこむ環境作り	4
主な方策 成果と課題	<p>子どもたちが主体的に遊ぶ姿を目指して、遊び素材の充実を図った。季節の移り変わりを意識し、その季節ならではの物を使って遊ぶ環境作りができた。</p> <p>ひとりひとりの子どもが今何に興味があるのか、何を楽しんでいるかを職員間で共有し、保育者も一緒に楽しさを共有することを心がけた。子どもたちの意欲的な姿に繋がっている。</p>	
重点目標 2	コミュニケーション力を育む	4
主な方策 成果と課題	<p>温かい雰囲気の中で笑顔で目を見てやりとりをした。園での生活で「話すこと」を大切に、遊びの場面、全体の場面と丁寧に時間を取り、こども同士が互いの思いを知り合う機会を作ってきた。まずは「話したい」と思える存在に保育者がなれるよう「こども理解」と「聞くこと」を丁寧にいった。引き続き聞いてもらう心地良さを大切にしていく。</p> <p>子どもは人を求める力をひとりひとり持っており、私たち大人が関わり愛着関係ができることで自分から人へ向かう力が発揮されていくこと、それはその子を大事することに繋がるという意識を今後も日々大事にしていく。</p>	
重点目標 3	健康な心と体を育む	4
主な方策 成果と課題	<p>園庭の使い方等職員間で共有し、どの年齢の子もやりたい遊びが十分できるように配慮した。園外への散歩では、同じ場所へ行くことで変化するものや変化しないもの等身近な自然に親しみ豊かな感性を育むことができた。</p> <p>畑での栽培活動や自分たちで育てたものを皆で食べる活動を通し、食への興味、食べる意欲に繋がった。</p>	
重点目標 4	人権保育の推進を図る	4
主な方策 成果と課題	<p>保育園、幼稚園で実践してきた人権保育をこども園になっても継承していくことを意識した。人権保育推進保育教諭が中心になり、自分を語り合うことから自分を見つめ、そのことが保育に生き、子どもを尊重することに繋がると言うことをいつも確認しながら進めることができた。</p> <p>「自分が大切にされている。愛されている。」ということ子どもたちが実感するために、ひとりひとりがクラスの中に居場所があるか、子ども同士の関係はどうか、人権力の「尊敬」を軸として園内研修や保育実践を通して考え合ってきたことが、その子なりに人とつながっていく力につながった。人権プラザの指導主事と連携を取り、将来を見据え、今つきたい力は何か、そのために何を大事にするか引き続き考えていく。</p>	
重点目標 5	家庭や地域と繋がり、将来に繋がる生活力を育む中で学びに向かう力の基礎を培う	3
主な方策 成果と課題	<p>地域の方々との交流は少なかったが、芋ほりや絵本の読み聞かせ等、様々な方の協力のおかげで貴重な体験ができた。地域の方に大切にされていることが実感できた。実体験から学びに繋がる機会を今後も大切にしていく。</p>	

2 改善方針

- ・ 学びに向かう力を培う関わりやあそびについての研修を行い、0歳児からの愛着関係作りの大事さを再確認した。愛着形成とあそびの人的物的環境の充実を継続し、発達や年齢にあった保育を今後も実践していく。
- ・ 散歩、栽培、飼育など自然を意識した取組をしてきたが、園周辺の豊かな自然に、より触れていく活動を今後も考えていく。
- ・ 一人ひとりが大切にされていると感じ、互いを認め合い大切にできる保育実践を目指し、尊敬し合える仲間づくりをしていく。様々な園での経験や考え方を子どもを中心に据えて具体的な保育活動に対して話し合い、同僚性を高めていく。
- ・ 保護者と共に子どもの成長と課題を考え合える信頼関係を築いていく。

自己評価書

四日市市立四日市幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	豊かな心と丈夫な体の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・花や野菜の栽培活動を通して生長を観察したり収穫して食べたりする経験をするこ とで自然や食への興味関心を高めることができた。また、みんなで一緒に給食を食べ る経験を重ねることで、食や健康（身体）の大切さに気づき、色々なメニューを食べ ようとする姿が見られるようになった。 ・小動物の飼育活動や園庭でバッタやチョウを捕まえて飼育や観察をするなど、自然 に親しみ、興味関心が増した。 ・様々な遊具に取り組んだり、友達と鬼ごっこやドッジボールをしたりするなど体を 動かして遊ぶことを十分に楽しんだ。様々な遊びを楽しめるよう環境を工夫したこと でやってみようとする気持ちが育ってきた。 ・体幹が弱く転びやすかったり、体のぎこちない動きが見られたりする。多様な体の 動きを身につけられる遊びや活動を経験できるように取り組んで行く。 <p>◇アンケートでは「自然と触れ合って遊べるようになりましたか」「今まで食べたこ とのないものを食べるようになる等食の幅が広がりましたか」の項目で95%の保護 者から、「体を動かして遊ぶことが好きになりましたか」の項目では全保護者から 「そう思う」「ややそう思う」と高い評価を得た。今後も引き続き、興味関心をもち 楽しみながら体づくりができるように取り組んで行く。</p>	
重点目標2	人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・職員から積極的に挨拶を行うことで、子どもたち同士でも挨拶を交わす心地よさを 感じている様子がある。自分から挨拶が出来る姿も増えてきた。 ・自分の気持ちや思いを言葉で表現しようとする姿を丁寧に受け止め、聞いてもら う心地よさを感じられるようにかかわってきた。自分なりに表現しようとする姿や相手 の話を聞こうとする姿、友達の気持ちや思いを汲み取ろうとする姿が育ってきた。会 話を楽しんだり、遊びを工夫したりする中で更に言葉や語彙を広げていきたい。 ・異年齢で生活や遊びを共にする中で、憧れや思いやりの気持ちをもつことができ た。 ・機会をとらえて繰り返し丁寧に関わってきたことでよいことや悪いことの判断が身 についてきた。引き続き一人一人に丁寧にかかわっていく。 <p>◇アンケートでは「親しみを持っていろいろな挨拶を交わすことができるようになり ましたか」「よいことや悪いことを自分なりに考えるようになりましたか」「身近な 人の話を聴こうとするようになりましたか」「自分の思いを動作や言葉で表現するよ うになりましたか」の項目で全保護者から「そう思う」「ややそう思う」と高い評価 を得た。今後も継続して取り組んで行く。</p>	

重点目標 3	地域・家庭との連携・協働	4
主な方策 成果と課題	<p>・基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携を大切にしながら一人一人に合わせて丁寧にかかわってきた。個人差はあるが身につけてきたので、引き続き、家庭と連携しながら進めていく。</p> <p>・個人懇談会や登降園時に保護者と幼児の姿などについて話し合うことを大切に、共に育ちを見守るようにしてきた。家庭での様子を聞くことで、園内での教育活動にも生かしていくことができた。</p> <p>・コロナ禍ではあったが感染対策をしながら地域へ出かける機会を持ち、様々な経験をする事ができた。地域の方との関わりや体験を通して、地域を知り興味を持ったり、人とかかわる力が育まれたり、また交通安全に対する意識が高まったりした。</p> <p>・更に保護者との連携や地域とのつながりが持てる活動等を工夫して深めていくことが大切である。</p> <p>◇アンケートでは「自分のことは自分でしようとするようになりましたか」の項目で全保護者から、「お子さんは地域と関わる機会がありましたか」「園の教育内容に満足していますか」の項目ではと90%の保護者から「そう思う」「ややそう思う」と高い評価を得た。今後も保護者との信頼関係を大切に、保護者の思いに寄り添いながら進めていきたい。また地域との連携や取り組みも更に進めていきたい。</p>	

重点目標 4	教育活動の充実	3
主な方策 成果と課題	<p>・一人一人の幼児の興味関心を探りながら、様々な遊びが楽しめるように保育室、園庭、ホールに適切な環境を構成するように努めた。その中で、教師の援助についても職員間が連携を取りながら日々工夫した。幼児が自ら考え工夫したり、試したりする遊びの充実を図ることができた。</p> <p>・保育後に子どもの姿や発達に応じた援助、環境等について日々話し合い、共通理解して援助できるようにした。</p> <p>・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて、主体的な遊びを通しての「学び」や「育ち」について園内研修を計画的に進め、保育の質を高めていきたい。</p> <p>◇アンケートでは「お子さんは園が好きで喜んで登園していますか」「身近にある物や道具で試したり工夫したりして遊べるようになりましたか」の項目で95%の保護者から、また「先生や友だちとかかわるうれしさや楽しさを感じていますか」の項目では全保護者から「そう思う」「ややそう思う」と高い評価を得た。引き続き、幼児理解に努め、幼児一人一人の姿や発達に応じて遊びを通して指導できるように努めていく。</p>	

2 改善方針

・多様な体の動きが経験できるような活動や環境の工夫をし、健康な体づくりを更に推進をしていく。また、家庭とも連携をして食育や体づくりに努めていく。

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた主体的な遊びを通しての「学び」や「育ち」についての研修を更に深め、教育課程に活かしていく。

・教育内容や子どもの学び・育ちについて、保護者や地域にわかりやすく伝える工夫（送迎時、おたよりやホームページ）をしていく。

・今後も一人一人の幼児の姿や課題を職員全体で共通理解し、教師の役割、援助について園内研修や日々の話し合いを大切に連携を深めていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 富田幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	思考力の芽生えを育むために	4
主な方策 成果と課題	<p>○PDCAサイクルをもとに幼児理解に努め、環境設定をし、一人ひとりに合わせたかかわりを意識した。遊びの中で、幼児が「やってみたい」という意欲が持てるよう教師も一緒に遊んだり気持ちに寄り添ったりしたことで、喜んで登園するようになった。好きな遊びややりたい遊びをみつけ楽しんでいく力をつけることができた。</p> <p>○ツマグロヒョウモンの幼虫から成虫になるまでの継続した飼育活動や様々な教材を利用して何度も試行錯誤して遊びに使うものを作る活動などに取り組んだ。「なぜ? どうして?」という感情体験を意識したことで、一緒に考えたり、工夫したりしてより深く楽しめるようになった。</p> <p>○それぞれの幼児が苦手だと感じることや新しい活動に挑戦することなどに対し、継続して取り組める環境を整えた。また友だちと一緒に取り組むことで、互いに刺激をしあえる場を作ったことで、乗り越えていくたくましさや「やったらできた」という自信が育ってきた。</p> <p>◇各年齢や発達段階に合わせ活動を取り入れ、幼児同士で考え合ったり気づき合ったりする場面を大切し、学年別での遊びをさらに充実していく必要がある。</p>	
重点目標 2	豊かな心とたくましい体を育むために	4
主な方策 成果と課題	<p>○保護者アンケート「体を動かして遊ぶことが好きになりましたか」はA「そう思う」が100%であった。</p> <p>○各年齢や発達段階に合わせ多様な集団遊びを設定し、誰もが安心して体を動かして楽しめるようにしてきた。また友だちと遊んで「楽しかった」「また、したい」という思いが持てるよう関わったことで、のびのびと体を動かして楽しむようになった。</p> <p>○基本的な生活習慣について、一人ひとりの姿に合わせ丁寧に指導してきた。自分ですようとする意欲が育ち、できるようになったことに自信を持ち、自己肯定感が高まった。</p> <p>○栽培活動を通して、様々な野菜や花の生長に関心を持つ機会を作った。遊びの中で活用する姿が見られるようになった。</p> <p>○収穫・調理を通して触感や匂い、味などを実体験したことで、初めて食べる食材も食べてみようとする気持ちにつながった。また、保護者に給食での幼児の姿を伝え、給食のメニューを家庭でも取り入れてもらうなどして、様々な食材に親しむ機会を持つよう取り組んだ。</p> <p>◇多様な動きを意識した遊びや生活の環境設定を充実させていく必要がある。</p>	
重点目標 3	共に輝く子どもを育むために	4
主な方策 成果と課題	<p>○保護者アンケート「先生や友だちとかかわるうれしさや楽しさを感じていますか」はA「そう思う」が100%であった。</p> <p>○友だちと関わって遊んだりみんなで力を合わせて遊んだりする活動を通して、充実感を味わう経験を積み重ねられるようにしてきた。遊ぶ中で「一緒にやろう!」と声を掛け合う姿が見られるようになった。</p> <p>○一人ひとりが自分らしく安心して生活できるよう、自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりする機会を繰り返し作ってきた。幼児同士が相談し合ったり鬼ごっこやリレーなど遊びのルールを決めたり、困ったときや意見の違があるときには、互いに意見を言ったり、聞いたりして納得して進めていく姿が見られるようになった。</p> <p>○園内研修を通して、幼児が表す姿の背景にある思いを知ろうと話し合いを深めた。様々な視点から捉え、日々の保育を振り返り生かすことができた。</p> <p>◇教育活動をより豊かにするため、いろいろな人とかかわり、多様な遊びの体験や考えに触れる環境をさらに工夫していく必要がある。</p>	

重点目標 4	家庭・地域との連携・協働を推進するために	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○地域の祭りである鯨船祭りや納涼祭など地域に根差した活動に親しみが持てるよう、ミニ鯨船を保育園児と一緒に見たり、くうちゃん音頭を踊ったりするなど活動を工夫し取り組んだ。</p> <p>○食育活動では、収穫物を持ち帰ったり、園で調理したものの調理方法を保護者の前で実演したりした。親子で食材に興味を持ったり、家庭で一緒に調理したりするなど園での活動が家庭ともつながった。</p> <p>○近隣の保育園や小学校へ行く機会を定期的に作った。園児がつながる遊びを意識して取り入れたことで、互いの園児同士と一緒に遊びを楽しむようになってきた。小学校では、遊具で遊んだり、かけっこ・凧揚げなど広い校庭を活用した遊びを体験したりすることができた。近い将来への期待とあこがれをもって成長する機会になった。</p> <p>○毎朝登園を見守っていただく地域の方とあいさつを交わしたり、地域の事業に積極的に参加したりしてきた。温かい言葉やまなざしに見守られる体験を通して、安心感や自己肯定感を高めることができた。</p> <p>○保護者アンケート「園は子どもたちの様子についてわかりやすく伝えていきますか(園だより、ホームページ、送迎時など)」はA「そう思う」が100%であった。</p> <p>◇幼児の様子を写真で掲示し、活動から身につく力や学びを伝え、保護者と幼児の成長を共有できた。今後も継続的に推進していきたい。</p>	

2 改善方針

○園内研修の中で、少人数を生かした保育内容や環境構成の見直し・評価、教材研究を充実させていく。

○生活習慣の定着について、今後も家庭と連携し幼児の生活を把握しながら、見通しを持ち、一人ひとりに合わせた指導を積み重ねていく。また、夏休み・冬休みなどの長期休暇中についても途切れのない取り組みを工夫していく。

○毎月の素話や絵本の読み聞かせ、芸術体験や人形劇などさまざまな表現に触れたことが、日々の遊びにつながるような保育実践に取り組み、豊かな感性が育めるようにしていく。

○近隣の園や小・中学校とともに研修を進め、地域の強みや課題を共有していく。また、学習の土台となる就学前の教育・保育を小学校以降の教育とつなげるため、公開保育などの研修内容をよりわかりやすく工夫し、小・中学校との連携を深めていく。

自己評価書

四日市市立 海蔵幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	豊かな体験と夢中になれる遊びの充実	3
主な方策 成果と課題	<p>(方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の「やってみよう」という気持ちを汲み取り、実現するための環境の工夫 ・ 幼児の興味関心を探り、友だちと一緒に遊びをすすめるための保育者のかかわり <p>(成果と課題)</p> <p>○ 保育者が一緒に遊ぶ中で、幼児の興味関心を探り、いろいろな遊びを提供したり、環境の工夫をしたりしてきた。たくさんの遊びを経験してきたことで、好きな遊びを見つけ友だちを誘って遊ぼうとする姿がみられるようになった。</p> <p>○ 一人一人の思いを汲み取り、丁寧にかかわったことで安心した気持ちで遊びを楽しむ姿が見られた。職員間で情報を共有することで幼児理解を深めることができた。</p> <p>○ 保護者アンケートでは「身近にある物や遊具で、試したり、工夫したりして遊べるようになったか」では、高い評価であった。遊びの中で「考え」「工夫」「楽しみを見つけ出す」姿がみられるようになり、保護者とも育ちを共有することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 幼児の発達や興味関心に合わせた丁寧なかかわりを続けていくと共に、周りの幼児とのつながりが持てるような援助や、次の日につながる環境の工夫をしていく。 ● 遊びの「学び・育ち」に向かう過程を保育者自身が意識し、可視化し保育者間での共有をしたり保護者へと発信をしたりしていく。 ● 保育者同士が連携して、4・5歳での交流や楽しさを共感できる環境を設定する。 	
重点目標2	たくましい心と体を育む活動の充実	4
主な方策 成果と課題	<p>(方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろな動きを経験し、体を動かす楽しさを味わうことができる環境の工夫と保育者のかかわり ・ 幼児が遊びや活動を通してあきらめずにやり遂げる達成感を味わい、自信を育む <p>(成果と課題)</p> <p>○ 保育者が幼児と共に積極的に体を動かしたり遊んだりしてきたことで、体を動かす楽しさを感じ、戸外で遊ぶ幼児が増えた。保護者アンケートでも高い評価であった。</p> <p>○ 幼児のいろいろな動きを意識し、「やってみたい」、少し難しいことにも「挑戦しよう」と思えるような環境設定を工夫したことは、意欲や自信につながった。</p> <p>○ 園での野菜の栽培・収穫など食育活動を通して、自分たちで育てたという意識を持つことができ、食べる意欲や苦手なものも食べてみようとする姿につながった。</p> <p>○ ファミリー参加や保育参加を通して、家庭と一緒に体づくりに取り組んだことで、保護者の意識も高まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 鉄棒や雲梯などの固定遊具や縄跳び・ボール遊びなど苦手意識をもつ幼児に対して、挑戦してみようという気持ちを支えていくかかわりや環境の工夫を考えていく。遊びの中で楽しみながらいろいろな動きを経験できるようにしていく。 ● 引き続き園外保育を計画的に行い、歩く経験ができるようにする。 	

重点目標 3	人とかかわる力の育成	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児が自分の気持ちや思いや考えを表現し、思いを伝え合うことを大切にする。 ・ 気持ちを通わせた挨拶の推奨 <p>(成果と課題)</p> <p>○ 保育者が一人一人の気持ちを受け止め、共感したり、気持ちを整理したりできるようかかわってきた。幼児は自分の気持ちをわかってもらう安心感や喜びを味わうことができ、気持ちを言葉や態度で表現しようとするようになった。</p> <p>○ 遊びの中で、幼児同士が相談したり、話し合ったりする場を作ってきたことで、自分の思いや考えを言葉にして伝えたり、聞いたりすることができた。また思いを出し合うことで、自分なりに折り合いをつけたり、相手の気持ちに気づいたり、汲み取ったりする姿につながった。</p> <p>○ 保護者アンケートの「先生や友だちとかかわるうれしさや楽しさを感じているか」ではとても高い評価をいただき、人とかかわる根っこである気持ちが育っていることは大きな成果である。</p> <p>○ 保護者人権研修会や男女共同参画出前講座、園内研修などを通して、子どもを取り巻く周りの大人の価値観、子どもの見方など、保育者や保護者が自分自身を振り返るきっかけとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 挨拶では、保育者がモデルとなり挨拶の大切さや心地よさを伝えていく。 ● 気持ちを表現するだけでなく、聞いてもらう心地よさ、嬉しさを感じられるよう「聞く」ことの大切さを伝えていく。 ● 幼児同士のかかわりが深まっていくよう、保育者も仲間の一員となり、共感したり、投げかけたりしていく場面も作っていく。 	

重点目標 4	地域との連携と子育て支援の充実	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>(方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分たちの住んでいる地域を知り、自然や地場産業に触れる ・ 保護者・保幼小中・地域との連携を図る <p>(成果と課題)</p> <p>○ 窯業研究所でヨモギ摘みや虫捕り、菖蒲園見学、海蔵神社でどんぐり拾い、万古焼体験など地域の自然や伝統産業に触れ、親しむことができた。</p> <p>○ 保幼交流、幼稚園交流、職場体験、社協との交流などいろいろな人とのかかわりをもつことができた。</p> <p>○ 保育参加、動画視聴、遊びや行事の写真掲示などをし、子どもの姿を保護者へ発信することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 園の活動や遊び会について地域への情報の発信の工夫を行う。 ● 保護者との会話を大切にし、保護者と共に子育てを考えていく。また、園でのねらいや願いを分かりやすく伝えていく。 ● 今後も保幼小中、地域との連携を図っていく 	

2 改善方針

<p>○ 今後も体を動かして遊ぶことで、体づくりにつながるように、環境の工夫、遊びの充実を図る。</p> <p>○ 異年齢でのかかわりを大切にし、発達の違いを理解しながら共に遊ぶことができる環境づくりをしていく。</p> <p>○ 職員間で一人一人の発達課題について共通理解し、発達に合わせた環境の工夫と保育者の援助を継続していく。</p> <p>○ 園外に出る機会を増やし、地域への親しみが深まる取り組みをすすめる。</p> <p>○ 園庭の環境、自然物を保育者が意識して遊びに取り入れ、幼児の感性を高め表現する力を育てていく保育をすすめる。</p> <p>○ 研修の充実を図り、保育者自身の価値観や見方を振り返り、人権感覚を磨いていく。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 泊山幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	豊かな体験と夢中になれる遊びの充実	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○ごっこ遊びを通して、友だちと一緒に考え合い、遊びをすすめていく楽しさを味わえるよう、環境構成を工夫した。空き部屋を利用して遊びが継続できるようにしたことで、次の日の遊びにつながり、幼児が夢中になって遊ぶことができた。</p> <p>○一人一人の姿・発達に応じた環境構成を工夫し、友だちと一緒に体を動かす楽しさを味わうことを大切にしてきた。様々な運動遊びに挑戦したり、友だちとルールのある遊びを楽しんだりする幼児の姿が増えた。</p> <p>○梅ちぎり、ふれあい参観、親子遠足、動物園遠足等、近年コロナ禍の影響で行うことができていなかった行事を実施することができた。また、動物園遠足や秋まつりで味わった感動体験がごっこ遊びにつながった。幼児たちが主体的に友だちと話し合ったり考え合ったりしながら活動をすすめていく機会にもなった。</p> <p>○園庭にある自然との出会いを大切にしてきたことで、幼児たちが季節を感じ、感動体験を得る機会につなげることができた。</p> <p>◆基本的な生活習慣の定着に向けて、幼児の姿を職員間で共有しながら取り組みをすすめてきた。今後も、職員で連携を図り、より子どもの主体的に行える姿につながるよう取り組みをすすめていく。</p> <p>◆5歳児は、園外に出かける機会を作ることができたが、4歳児が出かける機会が少なかった。安全性を考慮した上で、どのような活動や経験が可能であるのかを検討していく。</p>	

重点目標2	高い自尊感情を持つ幼児の育成	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>○教師がすすんで挨拶をすることを心掛けてきたことで、自分から挨拶をしたり動作や表情で表現したりする幼児の姿が増えた。</p> <p>○教師との信頼関係を土台にし、幼児が安心して園生活を送ることができるようかかわってきた。友だちや先生と出会うことの喜びを感じながら、登園する姿が見られるようになった。</p> <p>○遊びや生活の中で、一人一人の幼児の思いをしっかりと受けとめ、自己肯定感を高めていくようにした。また、友だちとのかかわりの中で、幼児同士が思いを伝え合う機会を大切にしてきた。自分の気持ちを話したり、相手の話に耳を傾けたりする姿が増えてきた。</p> <p>○行事の取り組みや日々の遊びの中で、異年齢の交流の機会を作ってきた。異年齢のかかわりが日常的に多く見られるようになった。憧れ・自信・自覚等を感じるかかわり合いとなった。</p> <p>○中学生職業体験、小学校の授業見学、保幼交流、避難訓練での警察官や消防士とのかかわり等、地域、保小中との交流を行った。様々な人とふれあうことの楽しさを感じ、「こんなふうになりたい」という憧れの気持ちをもつことにもつながった。</p> <p>◆コロナ禍の影響もあり、ふれあい遊びの機会が少なかった。また、保護者アンケートで、「よいことや悪いことを自分なりに考える」の項目で、「そう思う」が65%であった。人とかかわる心地よさを感じる機会や、自制心等を育む取り組みを充実させていく。</p>	

重点目標 3	地域、保護者とともに連携・協働し、社会とのつながりをもった教育活動の実践	3
主な方策	<ul style="list-style-type: none"> ○今年度は、梅ちぎりに出かけ、地域の方との交流をもつことができた。また、園外保育に出かけていくことで、地域への関心ももてるようにした。 ○送迎時に遊びの様子や幼児の成長の姿等を保護者に伝えたり、幼児たちの様子を使いやホームページ等で発信したりしてきた。また、保護者から幼児の家庭での様子や子育ての悩み等も聞き、幼児へのかかわり方を共に考え、連携に努めてきた。 ○地域関係者の助言から、安全教育活動を見直し、地域・保護者との連携を図ることができた。 ○遊び会は、開催方法を工夫しながら実施することができ、地域の未就園児や保護者との交流を図ることができた。 	
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆コロナ禍前に取り組んでいた地域・保小中との交流や行事が中止になったものがある。内容や方法を見直しながら、実施していけるよう検討する必要がある。 ◆相互にやりとりができる家庭との連携（幼児の成長を共に喜んだり、子育ての悩みを共に考える）や地域・近隣の校園との交流の方法や時間の持ち方を工夫していく。 ◆コロナ禍のため、遊び会と園児との交流を持つことができなかった。交流の場を工夫していくよう検討する必要がある。 	

重点目標 4	学びあい、聞きあい、互いに高め合う職員集団の形成	4
主な方策	<ul style="list-style-type: none"> ○保育記録や実践等をもとに、職員同士で意見交換を行い、幼児につけていきたい力や課題等を考え合った。また、SPDCAサイクルを基盤に、よりよい保育の実践に努めた。一人一人が積極的に自らの保育を高めようとする姿勢は強みである。 ○職員間で連携をとり、幼児理解、成長を促すかかわり等を学び、自らの保育に活かすことができた。継続して研修の機会をもつことで、幼児理解が深まった。 ○職員一人一人が実践をとり、課題や方策について考え合う研修を進めた。日々の保育を振り返りながら話をしていく中で、様々な視点から自分自身の人権意識を見つめ直し、人権感覚を高めていくことに努めた。 	
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ◆研修の還流報告や行事の反省等の時間を十分にとることが難しかった。方法を工夫しながら、学びを深めたり、よりよい保育内容を考えたりしていく。 	

2 改善方針

<p><重点目標 1></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な生活習慣が身につくよう、幼児の発達を捉え、職員間での連携を図りながら取り組みをすすめる。 ・ 感染予防に努め、実施方法を工夫しながら、園外保育や地域との交流の機会を増やす。 <p><重点目標 2></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人とかかわる心地よさや自制心等が育まれる取り組みをすすめる。 ・ 遊びや生活の中で、自分の思いを表現する機会や友だちの話を聞く機会を意図的に作り、幼児たちの“話す力”や“聞く力”を育むための援助の仕方やかかわり方を探る。 <p><重点目標 3></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特色や保小中の取り組みについて、職員自身が積極的に知ろうとする姿勢を大切にする。 ・ 遊び会と在園児との交流を進め、幼稚園の取り組みを知ってもらう機会を作る。 <p><重点目標 4></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児理解を深め、職員間で意見を出し合いながら学び合える研修をすすめる。 ・ 豊かな体験・遊びの充実につなげるため、幼児の興味・関心を把握し、教材研究を重ねる。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 内部幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	健康な心と体の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○年間を通じて戸外遊びを楽しみ、「体を動かして遊ぶことが好きになった」と保護者から肯定的な評価を得た。</p> <p>○失敗を不安に感じる幼児の姿が見られたことから、挑戦する姿や気持ちを認める言葉がけや、やってみたいと思える環境づくりに努めた。友だちが楽しむ姿を見て挑戦しようとする幼児の姿が増えた。</p> <p>○野菜の栽培では、種や苗から野菜が生長していく様子を見たり、収穫や調理体験をしたりすることで、食に関心を持つ幼児が増えた。</p> <p>○給食のメニューが体にとってどのような働きがあるのか、食材カードや絵本を使って知らせた。いろいろな食べ物に興味をもち、栄養に関心をもつ姿も見られた。</p> <p>◇身支度が進みにくい幼児への環境や動線の工夫がさらに必要である。</p> <p>◇園外に出かけ、歩く力や持久力の向上をはかったり、交通ルールを身につけたりする機会を設ける必要がある。</p>	
重点目標2	共に生活を作り出す力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>○全職員が率先して気持ちよく朝のあいさつをしたことで、元気にあいさつする幼児が増えたり、友だちとの朝の出会いを喜び合ったりする姿が見られるようになった。</p> <p>○教師が幼児の思いや言葉を先読みし過ぎず、幼児から伝えてくることを待つように心がけた。言葉での表現だけでなく、ジェスチャーなどいろいろな表現も認めていくようにした。</p> <p>○友だちと一緒にいろいろな活動にチャレンジしたことで、友だちを誘ったり応援したりする姿が見られ、友だちとのつながりも深まっていった。</p> <p>○遊びを通して、友だちのことを知ろうとしたり困っている姿を見て心配したりする気持ちが育った。また、友だちや自分の良さを振り返る場を持ったことで自己肯定感が高まり、互いに認め合える関係へとつながった。</p> <p>○発表会では、思いを伝え合い、生き生きと表現する姿が見られた。運動会、発表会などの取組の中で、考えを出し合い、協力し合い、やり遂げた満足感や達成感を味わうことができた。</p> <p>○事例検討や公開保育などを行い、専門性を磨き幼児理解を深めた。新たな視点や適切な援助についてのタイミングや方法を学ぶことができ、保育に活かせた。</p> <p>◇日々の取組の中で、聞く姿勢が身につけてきたが、聞く姿勢については、今後も取り組みの工夫が必要である。</p>	
重点目標3	身近な環境に自ら考えてかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○幼児が工夫しているところ、気付いたことに共感し、繰り返し試す過程に粘り強くかかわってきた。</p> <p>○園庭で見つけた木の実や草花、氷などの自然環境に触れ、遊びに取り入れることで、季節感を味わうことができた。</p> <p>○砂遊びや色水遊びなど自然物とのかかわりの中でイメージを広げ、物の性質や仕組みを活かして遊ぶ姿も見られた。99%の保護者から「自然と触れ合って遊ぶ機会が増えた」と、A評価「そう思う」の回答があり評価が高かった。</p> <p>○図鑑や月刊絵本の生き物のページなど、見たものや捕まえたものを調べようとする姿が見られた。よりたくさん感動や気づき、発見に出会うことができ、学ぶ喜びにつながった。</p> <p>○積み木や空き箱制作などの構成遊び、お店屋さんや絵本屋さんごっこなどを繰り返し楽しむ中で、数や形、文字に興味をもつ姿が見られるようになった。</p> <p>◇「文字や図解、数に興味・関心をもつようになった」の保護者の評価は、A「そう思う」が73%だった。園生活の中で学びにつながる活動と幼児の成長が伝わる工夫が必要である。</p>	

重点目標 4	保護者・地域との連携・協働	3
主な方策 成果と課題	<p>○どの職員もあたたかな雰囲気づくりに努め、保護者が相談しやすい環境をつくることができた。保護者アンケートの満足度も高かった。</p> <p>○絵本ノートのコメント欄に教師が丁寧にコメントを返していくことで、保護者がわが子の感性を知ったり、絵本の貸し出しを共に楽しみにしたりする姿につながった。</p> <p>○遊び会において、季節の行事を交えた遊びや制作、集団遊びなどの活動内容を取り入れ、工夫した。一定の参加者が定着し、期待をもって参加する姿が見られた。</p> <p>○ホームページや降園時の掲示板で使用する写真を精選し、言葉だけでなく見て取り組みが分かりやすいように工夫し、タイムリーに情報発信することができた。</p> <p>○今年度も地域の方と連携した活動を感染対策を講じつつ継続的に行い、地域の幼稚園として親しまれ、幼児にとってもいろいろな体験や人との出会いの場となった。</p> <p>○幼児が地域とのつながりを知り、自分たちが大切にされているという気持ちや感謝の気持ちをもつことができた。</p> <p>◇今年度、オンライン視聴による芸術鑑賞を実施することができた。今後もいろいろな方法を使って、幼児が多様な経験ができるよう工夫していく。</p> <p>◇近隣の保育園、小中学校との交流があまり進められなかったので、充実をはかっていく必要がある。</p>	

2 改善方針

<p>【重点1 健康な心と体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・できるできないという結果に捉われることなく、諦めずに取り組む気持ちやそれまでの過程を大切に。気持ちの面でサポートしながらも、体も柔軟に動かすことができるよう、活動内容や指導方法を考え、実践し続けていく。 ・地域や自然に親しむ園外保育を計画したり、幼児が楽しみながら身体感覚を高めたりするための環境の工夫に努める。 <p>【重点2 コミュニケーション力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流の充実をはかるために、自然な交流だけでなく、計画的な交流をさらに取り入れていく。 ・いろいろな関わりが経験できる環境を工夫し、気持ちが通じ合う喜びを感じたり、互いの意見を聞き合い、考え合う気持ちが育っていくように実践検討を増やす。 <p>【重点3 学びにつながる意欲の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の興味関心がどこにあるのか、何を楽しんでいるのかなど、常に教師が幼児の思いや行動、遊びを理解するように努める。 ・目的に向かって繰り返し考えたり、試したりしながら遊んでいる姿から、どんな学びや育ちにつながっているのかを明らかにする園内研修を充実させる。 <p>【重点4 保護者・地域との連携・協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の生活のめあての標語を掲示したり、たよりで知らせたりして啓発し、幼児・保護者の意識が高まる取り組みをしていく。 ・園児と遊び会の子どもたちが一緒に活動する機会をつくり、幼稚園教育の理解や期待につなげる。 ・定期的に職員同士の「学びの一体化」の研修を行っているが、連続した学びや接続カリキュラムについても話し合いが深まるように積極的に働きかけていく。 ・主体的な遊びの中に「学び」があることやその重要性について、地域や保護者に向け、視覚的にわかりやすい発信の方法を継続して工夫する。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 川島幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	心身ともにたくましい子どもを育てる	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・栽培活動を通して、いろいろな野菜の「育てる」「収穫する」「調理する」などの活動の体験ができ、子ども自らの気づきを大切にしてきた。栽培に詳しい職員が率先して水やりや畝作りに取り組んでいたため、さらに子どもが興味・関心をもてるように計画を立て進めていく。・サーキット遊びでは坂を上る力、下る力、バランスをとるなど、子どもの体の使い方や動きを日々見て感じる事ができた。必要な動きを考えて環境を変えるなど、日々努めてきた。さらに広い園庭を有効利用する方法や固定遊具に触れ、踏ん張る力、挑戦する力がもてるように教師が声をかけ、子どもたちの意欲を高めていきたい。・身支度や基本的な生活習慣などは、個々の子どもに合わせた声掛けや手立てを考え、励ましや見守りで自分で取り組む姿が増えてきた。今後も自分でできたことを認め、根気よく取り組むことを意識していく。	
重点目標2	心を動かし、遊びに夢中になる子どもを育てる	2
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・園内研修や大学連携をしてきたことで、子どもたちへのかかわり方を振り返ることで、子どもの内面や動きをさらに丁寧にくみ取り、意識してかかわるようにしてきた。子どもたちの遊びの進め方を見極めながら、さらに遊びが充実できるような環境設定について研究していく。・自ら選んでする活動では、子どもたちが自ら動き出して遊ぶ姿を尊重してかかわってきたが、遊びの偏りが見られた。教師は様々な経験ができる機会をつくり、時にはクラス活動で経験・体験させたいことなどの遊びを提供し、環境設定の工夫が大切である。・混合保育の中で4歳児は5歳児の言葉や遊びが刺激となり、やりたいことを見つける姿が見られた。異年齢での遊びだけでなく、5歳児同士での遊びが充実していくような手立てが必要と感じた。クラス活動では4歳児・5歳児と保育室を分けて活動することで、5歳児は友だちとのやりとりを楽しみながら話し合いをすることができた。	
重点目標3	自分らしさを発揮し、豊かな関わり合いがもてる子どもを育てる	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・教師が子どもの気持ちに寄り添い、声をかけることで安心して過ごす姿が見られた。また困った時には、教師に手助けを求めるようになり、子どもとの信頼関係が築けた。・トラブルがあった時に子どもたちは、気持ちをぶつけ合うが解決に至らず、周りの子どもたちが教師に困ったことを伝えに来る姿があった。教師は子どもの話をしっかりと聞き、気持ちの伝え方や伝わり方について個々に合わせたかかわりを心がけたことで、伝わる心地よさを感じるようになってきた。時には教師が見守り、子ども同士で考え合う場をつくることも大切である。	

重点目標 4	家庭や地域との連携を深め、教育内容に反映し、その充実を図る	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・桜幼稚園と動物園見学やみかん狩りなどの交流ができ、同年齢の子どもとふれ合う経験ができ、いい刺激となった。 ・保護者は子どもの成長を喜び、しっかりと思いを受け止めている方も多く、家庭の教育力が高く感じた。日々、保護者と登園・降園時に子育てについて話す機会を大切にしてきた。話をする中で、考えや思いが正しく伝えられているか、真実が伝わるような表現ができているか振り返ることがあり、今後、言葉の選び方や伝え方について職員間で考え合っていく。 ・地域の方より、さつまいも掘り・除草作業や青少年育成会より花苗をいただき、園児が植物を育てる機会など、日々、声をかけていただくことがあった。地域の方にあたたかく見守られていることを感じ、地域で育つ喜びを保護者と共に確認し合うことができた。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、4歳児が5歳児から刺激を受けていたが、来年度単学年になると刺激が少なくなる。桜幼稚園と交流してきた経験を活かし、他園と交流の機会を大切にし、子どもたちが自己発揮できるような交流の計画や環境の設定を行っていきたい。 ・少人数でも遊びが充実できるように、子どもの遊びの姿や興味関心を見極め、教師が子どもたちに遊びの刺激を与えられるように、遊びを提案していく。 ・子どもの動きに合った環境や手順について、研究を深め、基礎・基本的な力をさらにつけていく。 ・一人ひとりの発達・興味・関心を十分に把握した上で、今必要な経験や活動は何かと常に考え、子どもの発達がより促される指導を心がける。 ・地域に開かれた園を目指して、地域に出かけ、挨拶を交わしたり、新たな発見を喜んだりする機会をつくっていく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立三重幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	夢中になって遊びこめる環境や体験を通した学びの充実	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の興味や「やってみたいこと」に合わせ、思いに寄り添いながら環境を設定したことで、自ら遊び出す姿や友だちと一緒に楽しむ姿につながった。 ・ 異年齢で遊ぶ機会を増やしていくことで、互いに声をかけ合い共に思いを出し合いながら遊ぶなど異年齢の交流を深めることができた。 ・ 幼児の生活背景を捉えながらそれぞれの知識・経験に合わせたごっこ遊びを園で経験していく中で、イメージをつなげて遊びを広げることができた。 ・ 写真なども活用しながら一つの遊びの場面を検討し、幼児の学びや「10の姿」についてさらに深められるようにしていく。 ・ コロナ渦であるが工夫をすることで実現できることも増えてきたので、感染対策を継続しながら、幼児の育ちにつながる活動を継続していく。 	
重点目標2	思いを伝え合ったり、共感しあったり、互いを認め合う幼児の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師自身が気持ちの良いあいさつを意識していくことで、幼児同士もすすんであいさつを交わすようになった。 ・ 教師が思いを受けとめ言葉にして返していくことで、自分の思いを伝えたい気持ちが芽生えたり、自信をもって自分の考えを話したりする姿につながった。保護者アンケートでも100%の人が表現するようになったと評価している。 ・ 隣園の幼児と交流する場をつくっていくことで、ふれあいを楽しんだり、様々な考えがあることに気が付いたりすることができた。 ・ 葛藤しながらも幼児同士で考えられるような機会を教師が意図的につくっていくことで、思いを伝え合う経験につなげられるようにしていく。 ・ 教師が幼児役になってやりとりをしたり、絵本などを活用したりしながら幼児が様々な場面を客観的に見られるような場をつくり、相手の思いに気づく機会をさらに大切にしていく。 	
重点目標3	友だちと一緒に、思い切り身体を動かして遊びを楽しむ幼児の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの成長段階を捉えながら幼児の姿にあった遊びを取り入れていくことで、集団で遊ぶ姿につながり、身体を動かして遊ぶ楽しさを感じる幼児の姿が見られた。 ・ おにごっこなど継続的に楽しむ中で、積極的に身体を動かして遊ぶ幼児の姿が増え、友だちと遊ぶ楽しさを味わうようになった。 ・ 保護者アンケートでも「体を動かして遊ぶことがすきになりましたか」の項目で100%の人が「そう思う」と回答している。 ・ 様々な動きを経験するための環境設定について職員間での話し合いを深めながら幼児が経験できるようにしていく。 ・ 生活習慣について今後も保護者と連携しながら身についていくようにしていく。 	

重点目標 4	豊かに自然と関わる幼児の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育を計画的にすすめることができ、幼児が経験する機会を増やすことができた。 ・虫など身近な小動物を飼育することで、図鑑で調べてみるなど興味につながっていった。 ・季節の花や実など多く触れることができ、製作活動にも取り入れイメージを広げて楽しむ姿が見られた。 ・地域の方との活動を通じて栽培を経験し、生長を楽しみにし、自然への興味につながっていった。 ・保護者アンケートの結果からも「自然とふれあって遊ぶ機会が増えた」と感じている事が分かった。 	

2 改善方針

- ・園内研修を計画的に行いながら幼児の育ちについて考えていくことを継続し、幼児理解を深め、保育に活かしていく。様々な研修の機会を活用し、さらなる教師の資質向上に努めていく。
- ・遊びや生活の中での葛藤体験や非認知能力の育成などより意識をしながら取り組んでいく。
- ・幼児の経験がどのような育ちにつながっているのか、降園時やおたよりなどで引き続き伝えていくことで、家庭と連携を深めながら幼児の育ちにつなげていく。
- ・少人数の良さを生かして、様々な体験を園内だけでなく地域の方や小学校、近隣園などと連携しながら今後も行っていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 下野幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	健康な心と体づくり	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・年間を通して計画的に園外保育を実施した。5歳児の友だちの家巡りでは、地域の探検地図を作り、計画的な園外保育の結果、歩く力、体力、持久力がつき、園外保育で歩く距離も長くなった。また、地域の身近な自然、場所に触れ、かかわることができた。・自分の物の管理をする大切さを知らせるために、物の片付けの場所を視覚的に分かりやすく写真や絵で表示した。自分で意識的に片付け、散らかっていると幼児同士声をかけあう姿が見られるようになった。・サーキット遊びや固定遊具を計画的に保育に取り入れた。跳ぶ・わたる・まわる・登る・ぶらさがるの動きにポイントを置き、回数を重ね、高さや内容に変化をつけてきたことで、多様な動きができるようになった。	
重点目標 2	豊かな表現力の育成	3
	<ul style="list-style-type: none">・『聞く・話す・伝え合う』活動では、教師が様々な場面で言葉を引き出すかわりをし、具体的に場面ごとに伝え方を知らせてきた。帰りの会では、事前に質問テーマを決め、その質問に答える形で、話す活動を行った。その活動を1年間継続したことで、5歳児は、3学期になると、自分たちでクイズやなぞなぞを考え、クラス皆の前で披露する姿につながった。・クラスやグループで相談して決める意図的場面や、仲の良い友だちとのかかわりの中では、自分の意見を伝えたり、友だちの意見に耳を傾けたりするようになった。しかし園生活の中でかかわりの少ない友だちに対して、気持ちを聞いたり、友だちのしぐさや行動から相手の気持ちを感じる事が難しい時も見られる。教師は、幼児の気持ちを共に考え、幼児同士が感じた事をありのまま伝えあう姿を目指して、思いを言葉で伝える事の大切さを引き続き知らせていく。	
重点目標 3	豊かな人間性を育み、人とかかわる力の育成	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・『心に響く豊かな体験』では、地域環境を活かし、継続できる活動を模索しながら情報収集や計画を地域の人と共に進めてきた。「米づくり体験」では、地域の人と一緒に、田植えや収穫、脱穀の経験をした。収穫した稲穂の絵をじっくり見て描き、地域に展示するなど、実体験からの学びの機会が広がった。この取り組みを通して、食べ物大切に作る気持ちや、たくさんの人に感謝しながら食事をする気持ちが芽生えた。・当番活動や誕生会の司会、発表会を通して、一人一人が自分の役割に責任をもって取り組むようになり、クラスで協力し進めることの充実感を感じられるようになった。また、自分の得意な事を披露する場面をつくってきたことで、友だちに教え、様々なことに挑戦するきっかけとなり自信につながった。・「おはよう」「さようなら」「ありがとう」「ごめんね」などの挨拶は、教師が率先してする姿を見せることで、幼児も自ら声をかけるようになった。・一人一人が様々な表現方法で思いを表出するので、教師はその思いをしっかりと受け止めてきた。言葉にできない幼児の思いを教師が代弁し、気持ちをつないできたことで、友だちの気持ちを代弁する幼児もみられるようになった。	

重点目標 4	家庭・地域・保小中との連携	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 降園後の保護者との会話の中で、保護者の思いを受け止めることに努めてきた。「保護者と共に子育てをする」という視点を、今後も職員一人一人がもちながら、共に幼児の成長を喜び、『幼児の育てほしい姿』を具体的に共有し、今後も一緒に子育てを考えていく。 ・ 地域交流では、老人会の方々と「ポッチャ」を通して交流を深めることができた。地域の人の温かいかかわりに触れ、自分たちが大切に見守られていることを、幼児一人一人感じる事ができた。 ・ 保育園との交流を行事を中心に進めた。年間を通して、保育園児と合同のグループで活動したことで、親しみの気持ちを持つことができた。また、西朝明中学校3年生との家庭科交流では、中学生へのあこがれの気持ちや大きくなることへの期待を持つことができた。 ・ 園児・保護者対象の絵本貸し出しや、月刊絵本、移動図書館の利用を通して、絵本で親子をつなぐ活動を行った。絵本が好きになり、移動図書館を心待ちにする姿があった。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度も、年間を通しての園外保育、体づくりの計画を立案し、充実を図る。 ・ 保育園との交流では、生活や遊びを共に体験する中で、集団でしか味わえない経験や刺激を積み重ねていく。 ・ 下野地区の保幼職員間の連携をさらに深め、行事や保育内容など、互いに学び合う研修を進めていく。子ども達が集団の中で育ちあう機会がもてるように、保育園と幼稚園の自ら選んでする活動を中心に交流を行っていく。
--

自己評価書

四日市市立 羽津幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	遊びを通じての学びの充実	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <p>○幼児の遊びから興味・関心のあることを把握し、クラス全体に広げたり、クラス全体で経験した活動から遊びを深めたりできるように、教師の援助について考える。</p> <p>○伝承遊びやアスレチック遊具を活用し、しなやかな動きや体力づくりにつなげる。</p> <p>○飼育・栽培活動や園内の自然を利用し、実体験や遊びの経験を広げ、何が学びにつながっているのか、具体的に検討する。</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて経験することに戸惑いや不安を感じる姿が見られたが、幼児の思いに寄り添い、簡単なふれあい遊びを楽しんだり、身の回りの始末など自分でできたことを自信につなげたりしてきた。次第に安心感を持って主体的に遊びに取り組んだり、自信をもって活動に参加したりする姿に変わってきた。 ・クラス活動では異年齢で楽しめる集団遊びや、伝承遊びを取り入れるようにしてきた。友だち同士誘い合い、遊び方を伝え合う中で、皆で遊ぶ楽しさを味わうことができた。 ・あやとりやコマ回しなどに根気よく取り組む中で、手先をしなやかに動かしたり、友だち同士刺激を受けながら高め合ったりする姿につながった。 ・園内の自然環境を活かし、虫などの生き物を飼育・観察したり、花や野菜の栽培活動を継続して行ったりしてきた。その中で幼児の発見や感動したことに共感し、表情やつぶやき・小さな動作から何を感じ、何を考えているのか探るようにしてきた。好奇心が広がるような環境を設定したことで、幼児の気づきがまわりの幼児に広がり、自分たちで考えることを楽しむ姿が見られた。 ・幼児の遊びが豊かになるように、ふさわしい環境について教材研究や園内研修のテーマを絞っていく。 	
重点目標2	人とかかわる力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>【方策】</p> <p>○遊びや生活の場面で、話を聴いてもらう体験や自分の思いを表現する楽しさを感じられるようにする。</p> <p>○自分の思いを素直に表現し、相手の思いを聞き、いろいろな思いがあることに気づく。</p> <p>○友だち関係の中で折り合いをつけたり、粘り強く物事にとりくんだりする経験ができるようにする。</p> <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師は幼児一人一人の気持ちを受けとめ、幼児が不安な時や困っている時には、内面を理解するように努め、自分の思いが出せるように寄り添ってきた。また、幼児が遊びの中で何を楽しんでいるのか共感したり、十分遊びこめるように援助したりしてきた。次第に感じたことを素直に表現したり、安心感から言葉で伝えようとする姿に変わってきた。 ・遊びの場面で、相手に思いを伝えられず泣いたり怒ったりする姿があるが、幼児の思いを汲み取り、相手の気持ちに気づけるようにしたり、互いの思いを伝え合う場を作ったりしてきた。次第に幼児同士で解決しようとする姿に変わってきている。 ・友だちの姿に刺激を受け、固定遊具などに粘り強く取り組むことができた。日々の出来事をクラスの友だちに広げることで互いのよさを認め合う関係につながっていく。 ・人との距離感やかかわり方など、遊びを通して感じられるようにしてきたことで、人とかかわる楽しさにつながっていった。 ・コロナ禍で地域に出かけたり、地域の方や保幼小中の異年齢や同年齢の人とかかわったりする機会が十分持てなかった。今後はいろいろな人とかかわりの中で、どのような活動ができるかを考えていく。 	

重点目標 3	地域や家庭、専門機関との連携の推進	3
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>【方策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保護者と話すことで、子どもの育ちを共に考えていく。 ○おたよりやHPを通して遊びの姿や育ちや経験を保護者に発信していく。 ○幼児理解や具体的な支援を検討し実践する。 <p>【成果と課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と家庭での様子や子育てについて話をするようにしてきた。ともに子どもの育ちについて考え合うことができた。 ・園庭開放では、保護者同士がつながり合う時間となった。子育て支援の観点からも教師と保護者が話し合う時間を日々持つことができた。 ・家庭や専門機関と連携を取り、幼児の発達に合わせた援助や支援について学び、活かしていくことができた。 ・遊びの様子の写真掲示やホームページを通して、生活の様子や遊びの中の学びについてさらに発信していく。 ・遠足や散歩などを通して地域の方々の温かさを感じることもできた。 ・コロナ禍で地域との交流が難しい中、地域の消防団見学や山のコンサートなどに参加することで、地域のことを知る機会になった。今後地域への親しみや愛着につながるように連携していく。 ・大学連携研修や学びの一体化研修等を通して、環境構成や援助の手立てなど具体的に学ぶことができた。 	

2 改善方針

<ul style="list-style-type: none"> ・公開保育や園内研修などを保育を振り返る貴重な機会ととらえ、今後も計画的に園内研修を持つていく。 ・外部講師による運動教室や親子ふれあい遊びなど、園児や保護者・職員にとって新たな学びとなった。外部講師や研修で学んだことを保育に活かしながら、遊びを通した学びについて深めていく。 ・遊びの中の学びについて、具体的に発信できるように、発信の仕方について検討していく。 ・幼児の心身の発達を促すための環境構成について、体づくりや人とかかわりなどテーマを持って検討していく。 ・友だち関係や集団遊びの中で幼児の内面を丁寧に読み取り、友だちとつながり合うの援助の在り方を探り、仲間づくりに繋げていく。 ・混合クラスで育ちあう姿や、発達や年齢に応じた保育の中で育つ力を明確にしていく。 ・マスク生活では子どもにとって表情や口の動きが読み取りにくかったと思われる。教師は表情や言葉で伝える時など、表現の仕方や心情に共感することを意識し、コミュニケーション力の育成に努めていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 富洲原幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	遊びの充実を図る	3
主な方策 成果と課題	<p>○幼児が夢中になって遊べるような保育の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・主体的な遊びを大切にしようとかかわってきたことにより、幼児が意欲的に遊ぶ姿が見られるようになった。・少人数のためしたい遊びがすぐに始められなかったり、遊びが点在してしまったりすることもあったが、教師と一緒に遊ぶ中で周りの幼児たちにも楽しさを知らせる等つながりを意識していくことで、みんなで遊ぶ楽しさを味わうことができた。 <p>○異年齢交流におけるそれぞれの発達に応じた遊びの工夫</p> <ul style="list-style-type: none">・異年齢の発達を踏まえつつ交流できるような遊びを工夫してきたことで異年齢のつながりが深まり、互いに思い合い刺激し合いながら遊びを進めていく姿があった。・学年での人数差が大きいのが、年齢ごとの遊びの充実ができるようにそれぞれの発達に応じた遊びやかかわりを工夫した。・保育園との交流が再開し、大人数での遊びも経験することができ、より遊びの充実を図ることができた。	
重点目標2	しなやかなこころと身体づくりを推進する	3
主な方策 成果と課題	<p>○身体を動かす遊びや園外保育の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・初めてのことに消極的な姿がある。教師が不安な気持ちをしっかりと受け止め、安心して取り組める場を整え、様々な遊びから自信につながるように環境を整えていった。・友だちの姿に刺激を受け、「やってみたらできた」という達成感から挑戦しようとする気持ちが芽生えている。・積極的に園外へ出かけることで歩く力がつくとともに交通安全も意識できるようになってきた。 <p>○食への興味や関心をもち、進んで食べてみようとする気持ちの育成</p> <ul style="list-style-type: none">・栽培活動では、子どもたちが生長に気づきやすいようにと目につきやすい場所で栽培を行った。生活の中で身近に感じることができ、収穫体験やクッキングを通して食への興味関心を持つきっかけになった。	
重点目標3	自己表現する力を育てる	3
主な方策 成果と課題	<p>○自分の思いを表現する力</p> <ul style="list-style-type: none">・一人ひとりの思いをまずは受け止め、うまく言葉で表現できない時にはその子の思いに寄り添いながら気持ちを言葉で表してきた。一緒に整理することで、幼児が少しずつ自分で気持ちを話すことができるようになってきた。 <p>○自分の思いを素直に表現し、自分で考え行動できる力の育成</p> <ul style="list-style-type: none">・幼児の思いを丁寧に受け止め、信頼関係を築けるようにかかわってきた。幼児が徐々に気持ちを素直に表現できるようになっている。・よいことやわるいことを自分なりに考えたり、相手の思いに気づいたりする場面を大切に、今後ともいねいなかかわりを継続していく。 <p>○絵本や物語などに親しめるような環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none">・運動会のテーマを子どもたちが好きな絵本を題材にし進めたことで、より興味を持って何度も読んだり、シリーズの続きを借りていったりする姿が見られるようになった。・他のおはなし絵本やシリーズ絵本にも興味を持つようになり、自ら選んで借りていく姿が見られるようになった。	

重点目標 4	家庭・地域との連携を図る	3
主な方策 成果と課題	<p>○保護者と共に子育てを考えていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動内容については、写真やボードを通して保護者にわかりやすく伝わるよう努めてきた。 ・個人の姿や成長についても日々丁寧に伝え、保護者に安心して見守ってもらえるようにしていきたい。 <p>○地域を知り、自分たちの住んでいる地域に愛着が持てるような活動の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが住む地域への園外保育を計画的に取り入れた。次に行きたい場所を子どもたちと計画をし、地域マップを作る中で、地域について知るきっかけになった。 ・コロナ禍で滞っていた地域の方との交流を再開していくことで、地域の人の思いや温かさを感じることができた。 	

2 改善方針

- ・集団としての規模が小さくなっているため、自園だけでなく近隣の保育園、幼稚園との交流を密に行いながら、集団としての遊びの充実を図る。
- ・一人ひとりの思いを大切に受け止め、自ら選んでする活動だけでなく、みんなでする活動の中でも子どもの思いを取り入れ、1日の中で充実感を味わえる工夫をしていく。
- ・教師が幼児の気持ちに寄り添い、思いを引き出すかかわりや、友だちの思いに耳を傾けられるようなかかわりを継続していく。
- ・幼児同士のトラブルの機会を大切にし、見守ったり、一緒に考えたりする中で、互いの思いに触れ、気持ちの折り合いをつけながら遊ぶ楽しさを味わわせていく。
- ・教師自身が遊びや幼児同士のつながりを意識したかかわりを行っているかその都度見直していく。
- ・幼稚園が大切にしている「幼児が自ら選んでする活動」について、毎日の実践を大切にする中で、園内研修で更に具体的に話し合うことを継続していく。
- ・保育の質を上げていくためにも、教師は自分の関わりを振り返り、教師同士が互いに学び合い、SPDSAサイクルをしっかりと行い、幼児への柔軟な関わりにつなげていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 大矢知幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	コミュニケーション力を育てる (先生や友だちと言葉のやり取りをする楽しみを味わう)	3
主な方策 成果と課題	<p>〈主な方策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人と親しみをもち、自ら挨拶をする ・ 思いを伝える中で、聞いてもらう喜びと話をする楽しさを感じる <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教師も積極的に挨拶をし、目を見て話すことを心がけたことで幼児自ら挨拶するようになった。ふれあいデーや保幼交流、小学校体験など、地域や保幼小中との交流を通し様々な人と触れ合う中で、親しみをもち、感謝の気持ちを込め挨拶ができるようになった。保護者アンケートの中で「親しみを持っていていろいろな挨拶を交わすことができるようになりましたか」の質問に「そう思う」「少しそう思う」と100%の評価を得た。 ・ 幼児が自分の思いを表現できるよう、丁寧に受け止めたり、幼児の思いをつないできたことで、表情も豊かになり、安心して過ごす姿が見られるようになった。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遊びの中で、自分なりの意見を言うことを躊躇したり、反対に思いを相手にぶついたりする姿が見られた。一人ひとりの気持ちが出せるように、幼児の気持ちを丁寧に探りながら、表現できるようにする。 	
重点目標 2	体力のある子どもを育てる (進んで体を動かし、自分の体を大切にしようとする)	4
主な方策 成果と課題	<p>〈主な方策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の定着 ・ 根気よく取り組む姿勢を身につける ・ よく体を動かして遊び、しっかり食べる <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 竹馬、鉄棒、縄跳びなど、幼児が意欲的になる環境づくりを工夫したところ、根気良く挑戦するようになった。戸外に進んで遊びに行き、教師や友だちと一緒に体を動かすことが心地良いと感じる幼児が増えた。 ・ 食事については、野菜の栽培・収穫・調理の活動を通して、幼児の五感に働きかける取り組みを工夫することができた。楽しい雰囲気の中で、みんなで一緒に食べることで、少しずつ苦手な食材に挑戦する意識が持てるようになった。弁当参観やクラス懇談会を行い、保護者同士で家庭の食事について交流したり、小学校の給食について知る機会をつくった。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的生活習慣の定着について、幼児自ら意欲的にできるよう、見守りが必要である。家庭でも意欲的に取り組めるよう連携していく必要がある。 ・ 園外保育でさらに歩く経験ができるようカリキュラムに位置付け、戸外で過ごすことの心地よさや楽しさが味わえるようにする。 	

重点目標 3	感性豊かな子どもを育てる (遊びこむ中で充実感や達成感を感じる)	4
<p>主な方策</p> <p>成果と課題</p>	<p>〈主な方策〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創作活動を楽しむ ・ 自然に親しみ、楽しむ ・ 地域産業にふれ、親しみ関心を持つ ・ 絵本など、お話の世界を楽しむ <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然に触れ、実体験を通して幼児は様々な気付きや発見が遊びの中で感じられるよう環境を工夫してきた。幼児の気づきを教師が共感し、幼児自ら試したり、友だちと共有しながら遊びに取り込む姿が見られるようになった。 ・ 絵本に親しみが持てるよう年齢や季節に合わせて読み聞かせを行い、週一回の絵本の貸し出し、読み聞かせボランティアによる月に一回の読み聞かせをした。絵本への興味がひろがった。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 戸外で体を動かして遊ぶことが好きな幼児が多い一方、創作活動に苦手意識を持つ幼児も見られた。幼児一人ひとりの興味・関心に寄り添いながら、遊びの中で、幼児の思いが遊びの中で実現できるよう保育者の環境や援助が今後必要である。 ・ 次年度は地域産業に触れられる取り組みをカリキュラムに組み込み、親しみが持てるようにしていきたい。 	

2 改善方針

<p>〈コミュニケーション力を育てる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 表情や言葉から、幼児の気持ちを汲み取り、まずは教師が気持ちを十分に受け止めていくことで、気持ちが伝わった嬉しさを十分に感じられるようにする。また、友だちとのやり取りの中で、どのような言葉が心地よいか、伝え方を考えられる機会を持つ。 <p>〈体力のある子どもを育てる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活習慣の重要性や必要性を幼児へ知らせるとともに、保護者へ啓発し、園と家庭とが連携する中で、健康な体づくりができるようにしていく。 <p>〈感性豊かな子どもを育てる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 創作活動への意欲がかきたてられるような教材の準備、環境の設定を工夫し、遊びにつながるよう援助していく。 ・ 地域資源を十分に把握し、地域産業に触れられるよう、園外保育を教育計画に組み込んでいく。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 常磐中央幼稚 園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	幼児の興味や関心・意欲につながる環境構成、 クラスづくりを通じた非認知能力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none">・幼児一人一人の興味・関心に応じた環境設定を試行錯誤しながら行った。好きな遊びをみつけて、楽しむ姿が見られた。・幼児理解を深めるとともに、一人一人の幼児が持っている遊びへの欲求やイメージを汲みとり、実現させることで、より遊びへの意欲が高まってきている。また作ったものを使って遊ぶ姿が見られ、友だちと一緒に集団で遊ぶ姿など広がりがみられた。・1年を通して、感じたことや考えたことを友だちと伝え合ったり、想像力や創造力を豊かにしたりしてごっこ遊びを楽しみ、非認知能力を育むことにつながった。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">・環境設定については、幼児の姿や保育者のねらいに応じた環境を考え、園としての教育力をあげていく。・次年度は今年度の遊びの経験を基盤に、より遊びを充実させる環境構成を探っていく。	
重点目標2	豊かな人間性および人とのかかわる力の育成	4
主な方策 成果と課題	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none">・園が安心できる場所となり、のびのびと自分の思いを表現する姿につながった。・幼児一人一人の特性や生活全体を受け止めて丁寧に向き合い、人とのかかわることが心地よいと感じられるような活動や援助を行ってきた。担任を中心とした大人との信頼関係を築き、その関係を幼児同士へと広げていくことで、学級全体のつながり、そして異年齢のつながりが持てた。・進んで朝の挨拶をしようとする姿や、自分の思いを言葉で表現し、相手の話を聞き、受け止めようとする姿が見られた。表情などから相手の思いを察し、自分なりに行動で表わすようにもなっている。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">・一人一人の幼児が人とのかわりをどのように楽しんでいるのか、どんな思いをもっているのかなど、より丁寧にとらえ、教師間で共有していく。	
重点目標3	保護者・地域(保幼小中)との連携および職員の資質向上	3
主な方策 成果と課題	<p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ渦ではあったが、保護者との対話を大切にしながら教育活動の充実を図ってきた。・地域内の保育園とお互いの園を行き来し遊んだり、合同で地域の行事に参加するなど、交流をもつことができた。また人権プラザ赤堀の児童集会所に出かけ、人との出会いや児童集会所を身近に感じることもできた。また、公開保育・授業参観をし合い、担当者会議で共通理解を図るなど、取り組みを進めることが出来た。・園内研修においても、園の教育課題を明らかにお互いの実践を交流しながら研修を進めることができた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">・地域に向けて、園の教育活動について積極的に発信し、幼児と地域とがつながる機会を作っていきたい。・次年度は更に保護者研修なども行いながら、園としての教育力の向上を目指していきたい。	

2 改善方針

- ・環境設定において、柔軟に対応しながら行ってきたが、幼児がより楽しくなる環境設定を模索し様々な環境を整えられるように、今後も取り組んでいく。
- ・幼児一人ひとりに「人とかかわる力」がついてきていると思われる。かかわりを通して育む「豊かな人間性」について、教師一人一人のとらえ方、考え方を出し合い共通理解につなげ、園としての教育力の向上につなげる。
- ・今年度以上に、保幼交流や地域の行事などに幼児が参加し、園の取り組みを積極的に発信し、子どもたちの育ちにつなげていく。

【様式1】

自己評価書

四日市市立 三重西幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	健康な心と体づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>○基本的生活習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人に合わせて丁寧に根気よくかかわることで、自分ですることに自信や喜びが持てるようになった。 <p>○幼児に合った運動遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い園庭を活かし、やってみたくなる環境の設定を工夫した。体を動かすことが好きな幼児に育った。 ・幼児のやってみようとする気持ちに寄り添い、励ますことで、挑戦したり粘り強く取り組んだりする力がついた。 <p>○栽培や弁当・給食等の経験を通じた食育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偏食の幼児が多かったが、給食や育てた野菜をみんなで一緒に食べる経験から、食へ興味、関心を持つことができた。園だけでなく家庭でも食への幅が広がっている。 	
重点目標2	コミュニケーション能力の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○思いの伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな思いも受け止めていくことで、自分の思いを出したり、言葉で表現したりできるようになった。 ・幼児同士で伝え合う機会を設けたり、代弁して気持ちを伝えることで、思いを伝えあう場を大切にしてきた。相手の気持ちを知らうとする気持ちが育ってきている。 <p>○話す、聴く力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話をしたい思いをていねいに受け止めていくことで、自分の思いを伝えることへの喜びを感じられるようになった。 ・“話す時”、“聴く時”をわかりやすく伝え、聴く時と聴き方を意識することで、聴く力がついた。 <p>○混合保育の中で発達に応じた遊びや生活の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4歳児、5歳児が共に過ごすことで、4歳児は5歳児に憧れの気持ちが、5歳児は4歳児に思いやりの気持ちが育った。 ・活動を分けたり、活動に差をつけたりして各学年の発達の保障をすることで、学年でつきたい力が身についた。 	
重点目標3	学びにつながる意欲の育成	3
主な方策 成果と課題	<p>○活動的な遊びの工夫と環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の興味や「やってみたい」という思いを教師がとらえ、思いが実現できるように援助することで、工夫をしたり、繰り返し挑戦したり試したりする姿につながった。 <p>○友だちとの協同体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会、発表会に向けての活動の中で、同じ目標に向かって幼児同士が考え合う姿を大事にし、自分たちで作りあげる喜びを味わえるようにしていった。協力することの楽しさ、喜びを味わえるようになった。 <p>○身近な動植物とのかかわり、生命尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植物は、目の届くところで栽培することで、興味が持続し、生長していくことの楽しさや喜びを感じることもできた。 ・モルモットの飼育や花や野菜の栽培などを通して、動植物に親しみ、思いやりの気持ちが育った。 	

重点目標 4	家庭や地域・小学校・中学校などと連携した園づくり	4
主な方策 成果と課題	<p>○家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の保育の写真を掲示し、それをもとに保護者と話をすることで、園の教育内容をよく理解してもらえた。 <p>○地域や保幼小中との交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との交流は、1回のみでなく継続的に行うことで、より地域の方に親しみを持つことができた。地域の方にお手伝いしてもらっただけではなく、園児から発信できることも考えていきたい。 ・小学校へ定期的に行くことで、児童との交流はできなかったが、小学校生活を知り、期待を持てる機会となった。 <p>○遊び会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お祭りごっこ、運動会ごっこ、発表会ごっこなど園児とかかわる機会をつくることで、園の様子を知ってもらえた。また、継続してきてくれる未就園児の数が増えた。 	

2 改善方針

<p>【重点目標2 コミュニケーション能力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちと心が通う経験をすることで、友だちのことを思いやる気持ちを育て、相手の思いに気づき、思いを聴こうとする幼児を育成していく。 <p>【重点目標3 学びにつながる意欲の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師のかかわりや環境構成を工夫することで、より活動的な遊びができるようにする。 ・集団での経験の確保をするために、保幼小中との交流を計画的に行っていく。 <p>【重点目標4 家庭や地域・小学校・中学校などと連携した園づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生とかかわる機会をつくり、いろいろな世代の人との交流する機会を作っていく。 ・隣接設置の強みを活かし、小学校と継続的な交流をしていく。 ・地域とのつながりをより密にしていく。来てもらうだけでなく、園児から出向いていき、交流を深める。
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 八郷中央幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	ほっとする：健康な心と体作りを推進する	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児一人一人へのスキンシップや、温かい言葉かけとじっくり話を聴くことを心がけてきたことで自分が大切にされていると感じとり、安心感をもって生活できるようになった。週明けや長期休業後も登園意欲が高まったり、積極的に友だちと遊び出せたりできるように、友だちと意思を通わせる体験を大切にしてきた。 ・ 戸外で遊ぶ時間を十分に保障し巧技台やジャンピング等の様々な教具を工夫して身体を動かして遊ぶ環境を整えた。この環境により、体を動かして遊ぶことが増えて園の教育アンケートでも「体を動かして遊ぶことが好きになった」の項目で「そう思う87%」「おおむねそう思う13%」と100%の保護者から高い評価を得られた。 ・ 登降園時に教職員が一人一人の名前を呼びかけ積極的に挨拶を行うことで、幼児も挨拶を交わす心地よさを感じ挨拶をするようになった。マスクの着用も要因と思われるが、幼児同士での挨拶や自分からすすんで挨拶をする姿が少ない傾向がみられる。 	
重点目標2	わくわく・どきどき：遊びや生活に主体的にかかわり、集中して取り組む力を育てる	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭は自然豊かで生き物や植物が身近にあり触れたり捕まえたりして日常的に観察することができた。園内での植物の水栽培やカブトムシの飼育や朝明川での川遊びなどを通してさらに興味や関心が広がった。栽培、食育活動は「育てて収穫し食べる」五感を通した体験となり、苦手な物も食べようとする意欲につながった。 ・ 段ボールなど思い通りに形を変えたり組み立てたりする素材を工夫して準備することで、幼児が様々な遊びに興味をもち意欲的に遊び出すようになった。 ・ 自ら動き出すまでに時間がかかる幼児には、個々の心の動きに寄り添い、保護者と連携しながら共に励ましたり、意欲を認めたりした。少しずつ苦手な活動にも自ら参加し、じっくり遊びに取り組むようになった。 	
重点目標3	つながる：人とかかわる力を養う	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 異年齢の幼児が生活や活動を共にし、かかわり合って過ごしてきたことで、誘い合って遊ぶようになった。園の教育アンケートでも「先生や友だちとかかわる嬉しさや楽しさを感じている」の項目で保護者から高い評価を得た。運動会や発表会等の取り組みの中で友だちの様子に気づき声をかける姿や共感し合う姿があり、思いやりの気持ちが育っている。 ・ 教師との安心できる関係のもとでじっくりと意思を話す機会を積み重ね、自分の気持ちや思いを伝えるようになった。しかし、園の教育アンケートで「身近な人の話を聴こうとするようになった」の項目で「そう思う33%」「おおむねそう思う67%」と肯定的な評価ではあるが「そう思う」の評価が低かった。まだまだ相手の思いや考えを聴く場面では、教師の見守りや代弁が必要である。 ・ 福寿会（老人会）との収穫祭や歴史資料室見学、八郷消防団の防災教室など、地域の人との交流を通して身近な人への親しみや、家族以外の人から認められる楽しさを味わい自尊感情が育まれた。「収穫した野菜のお店屋さん」や「昔の展示物」など地域の人との交流の機会は、物を介して人と接する力の育成につながった。 ・ 八郷西保育園との交流も3回行った。集団での活動体験の中で、様々な人とかわって遊ぶ経験ができた。 	

重点目標 4	やってみる：様々なことに挑戦しようとする力を育てる	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方と連携して進めた米作り体験（田植えや鎌を使った稲刈り、稲の脱穀）や買い物体験などは、幼児が「やってみたら面白い、楽しい」という気持ちを味わうだけでなく人の役に立つ喜びを感じる経験ができた。幼児の心が揺さぶられる直接体験ができ、豊かな教育活動となった。 ・ 友だちが「一緒にしよう」という誘いかけは、消極的な幼児が挑戦するきっかけとなった。互いにがんばっている姿を認め合い励まし合う機会を意図的に作ることで次の意欲にもつながった。 	

2 改善方針

重点目標 1

・ 今後もしなやかな体づくりを意識した教具の活用など魅力ある環境を継続して準備していく。また、幼児が多様な動きを経験できるような遊びを取り入れ、体を動かす楽しさを十分に味わえるようにする。

・ 今後も自分からすすんで挨拶ができるように少し待ったり、幼児同士が挨拶を交わせるように促したりしていく。

重点目標 2

・ 来年度は、同じ遊びの中でも自分たちでルールを考えたり工夫したりして遊びが広がる楽しさが味わえるように援助し、教材や手立てを研究していく。

重点目標 3

・ 一人一人の幼児に繰り返し時間をかけて根気よくかかわり、友だちとの思いや考えの違いに気づいたり、受け入れたり共感したりすると共に、よいこと悪いことを考える機会となるようにする。

・ 年度初めに、互いの育ちにつながるような保幼交流の年間計画を立て、活動を継続して行えるようにして集団体験を豊かにする。

重点目標 4

・ 幼児が様々なことに挑戦する中での心身の成長を保護者に丁寧に伝え、家庭での変化や取り組みを十分に認めていきながら、共に幼児の成長の喜びをわかちあうことを継続していく。

自己評価書

四日市市立 桜幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標1	はずむ：心を弾ませる豊かな体験	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭の自然をいかした遊びや、お店屋さん等のごっこ遊びなど、子ども達の興味・関心を丁寧にとらえ、自ら動き出す環境を工夫したことで、感性豊かに意欲的に遊ぶようになった。 ・自然豊かな環境の中、ザリガニなどの生き物やウサギなどの動物に実際にふれ、飼育活動などに取り組むことで、生き物の不思議さや命の大切さに気づく姿が見られた。また、図鑑や絵本などを活用したことで、より深く考えたり、命を大切にすることにつながった。園の教育アンケート調査の結果においても、「自然と触れ合って遊ぶ機会が増えた」という項目において、100%の保護者が「そう思う」と回答し、高い評価が得られた。 ・4、5歳児と一緒に生活や遊びを楽しむことを大切にしながら、学年ごとの活動も保障してきたことで、4歳児は安心して自分を表現すると共に5歳児への憧れの気持ちを育み、5歳児は4歳児を思いやる気持ちを持ちながら活動を自分たちが中心となり進めていくなど、自信を持って活動する姿につながった。 	
重点目標2	うごく：やってみようとする力 動き出す意欲の育成	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・失敗を恐れたり、挑戦することに消極的な姿が見られた。遊びや生活を通して、やってみようとする大切さを繰り返し伝え、その姿を励まし支えていったことで、運動会への取り組みなどを通して、次第に自信をもって挑戦するようになった。今後、自ら動き出す意欲を更につけていくため、関わりや環境を工夫していきたい。 ・自分達で遊びを進める経験を大切に取り組んできたことで、「自分でできるんだ」という気持ちが育まれ、自分のことは自分でしようとするようになった。一方で家庭では習慣になりにくい姿もある。保護者に園での様子や取り組みを伝え、家庭と連携を取り進めていきたい。 ・保幼交流や園外保育の取り組みの中で、様々な人と関わりと共に、豊かな経験をすることができた。それが、子ども達の世界を広げ、生活や遊びにいかされた。 ・今まで育てたことのない野菜の栽培をしたり、畑の地図を作ったりして、栽培活動を工夫すると共に、安全に配慮しながらいろいろな調理方法や味を経験したことで、子ども達の興味関心が広まり、野菜を美味しく食べる姿につながった。 	
重点目標3	つながる：いきいきのびのび育ちあう 人とのかかわり	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶運動など、保護者と連携を取りながら進めたことで、挨拶をする心地よさを感じ、自分から挨拶をする姿につながった。 ・思いをどのように表現したらいいのかわからなかったり、素直に表現できない子どもの姿があった。まずは教師と一緒に思い切り遊びを楽しみながら、思いを受け止め、気持ちを整理したり、代弁したりしていった。次第に自分の気持ちを言葉で伝えたり、感情を表現するなど、安心して自分を表現できるようになった。また、友だちの良いところを言葉にしたり、友だちの思いを聞こうとしたりするなど、子ども同士で受け止め合う姿が見られるようになった。 ・発表会では、4歳児は、生き生きと自分の思いを友だちと伝え合う姿が見られ、5歳児は、時には気持ちをぶつけ合いながら、友だちと一緒に劇を創っていく姿が見られるようになった。 	

重点目標 4	地域との連携・子育て支援の充実	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携については、継続した栽培活動や、芋ほり焼き芋など、地域の方との交流を深めることができた。幼児が地域の方の名前を覚えたり、手紙を書く姿もあり、自分たちが大切にされていることを感じると共に、親しみの気持ちが持つことができた。 ・継続的、計画的な保幼交流を行った。保育園、幼稚園で一緒に計画を立て、ねらいや活動を考えたことで、子どもたちが互いに親しみをもって関わり合う姿につながった。大きな集団の中での遊びの楽しさを感じながら、自己を発揮する力もついた。 ・降園時やおたより、HPで写真とともに子どもたちの成長を積極的に保護者に伝えてきた。共に子どもの成長について話し合うきっかけにもなり、保護者と連携を取りながら、保育を進めることができた。 ・学びの一体化の取り組みでは、公開保育を2日間行ったり、小学校や中学校の施設や教師との交流を行ったりした。園の取り組みについて発信し、理解も得られた。今後は、相互的な関わりができるよう、小学校、中学校と共に計画を立て、進めていく。 	

重点目標 5	教師の資質向上	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・日々幼児の姿から保育について話し合い、一人一人の課題やねらいを明確にしながらか、保育やかかわりを工夫してきた。また、写真や動画を活用した園内研修を行い、意欲的に研修を進めることができた。 ・指導主事訪問や専門家から学んだことを保育に取り入れることで、より良い保育につながった。また、積極的に他園や園外の研修に参加し、そこで学んだことを園内で還元し合うことができた。 ・こども園に向け、継続的に保育園、幼稚園の職員で話し合いを進めてきたことで、互いに学び合う機会となり、学んだことや気づいたことを保育にいかすことができた。 	

2 改善方針

<p>○意欲はついてきたが、自分から動き出す意欲はまだ弱い幼児もいる。その意欲を引き出すための教師の人的環境や友だちとの関わりについて、職員間で連携を取り、話し合いながら、引き続き取り組んでいく。</p> <p>○保護者へのアンケート調査の「自分のことは自分でしようとする」という項目において、「そう思う」と回答したのが75%と少し低かったことから、家庭との連携を更に深め、園でついた力を違う環境においても発揮できるように取り組んでいく。</p> <p>○地域の小学校や中学校との交流や研修において、園での取り組みを知ってもらうだけでなく、より学び合う機会となるよう研修の在り方を探っていく。</p>
--

【様式1】

自己評価書

四日市市立 笹川中央幼稚園

1 園づくりビジョンの重点目標の達成に基づく評価

重点目標 1	生活習慣を身につけ、健康な体をつくる	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生活リズムについては文化的な背景や家庭の状況が多様であるため、「早ね早おき朝ごはん」の大切さなど子どもの健康にとって望ましい生活習慣について保護者とともに考え、連携しながら進めてきた。 ・手洗い・うがいなどの衛生管理については、その必要性を伝えながら、丁寧に声掛け、見届けをすることで、習慣として身につけてきた。 ・体づくりについては、コロナ禍での影響で入園前に戸外で遊ぶ経験が不足している幼児も多いため、遊びの中やクラス全体の活動の中で様々な戸外遊びに興味を持てるようにしてきた。そのことで戸外で遊ぶことが好きになった幼児も多く、動き方や体力が向上した。 ・食育については食文化の違いもあり、食べたことのない味や食材に抵抗を示すこともあったが、給食や栽培活動など食育の取り組みを通して、食べたことのないものも少しずつ興味をもって食べようとする姿が出てきた。 	
重点目標 2	互いを認め合い、温かい人間関係を育てる	4
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・母語の違いから、言葉でのコミュニケーションをとることが難しい場面も多かったが、パントマイムの観劇や阿波踊り体験など共通体験を多く設定することで、遊びのイメージや楽しさを共有することができ、お互いを理解しようとする気持ちが育った。 ・地域の特色である多文化共生教育の取り組みの中で、いろいろな国の国旗や言語、歌などに触れ、豊かな異文化を紹介する機会を作ってきたことで、自分と他者との違いに気づき、違いを当たり前のこととして受け止め、友だち関係を築いている。 ・一人一人の幼児の気持ちに寄り添い、温かい信頼関係を築いてきたことで、幼児が安心して自己を発揮し、周りの幼児に対して温かいかわりを持てるようになった。 	
重点目標 3	豊かな生活経験をし、聞く・話す・伝える力を育てる	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな体験活動を通して心が動かされ、身近な先生や友達に「伝えたい」という思いから、言葉だけでなく体全体で伝えようとする姿がある。適応指導員と連携しながら、一人一人の思いを丁寧に受け止めてきた。 ・保育者がやさしい日本語、分かりやすい日本語を心がけ、視覚的な支援も多く取り入れることで、母語が違う幼児同士も自分たちで伝えよう、相手の思いを理解しようとするようになった。 ・幼児同士が関わり合い、自分の思いを伝え合う場を意図的に作ってきたことで、お互いの言葉を聞こうとする関係が生まれ、幼児同士つながり合っていくことに喜びを感じるようになった。 ・毎日の絵本の読み聞かせを通して、さまざまな日本語の響きを感じ、時にはポルトガル語や英語で読み聞かせをしてもらい、さまざまな言語に触れる機会を作ってきた。 	

重点目標 4	支え合い協力して取り組む保護者・地域・教職員	3
主な方策 成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・直接話す機会が少ない保護者が多いため、保護者との連携は課題である。園でのようすを毎日ボードやホームページで保護者に向けて知らせ、幼稚園の教育に対する関心や理解を深め、安心して預けられる場であることを心がけてきた。 ・幼稚園の教育に対する保護者の関心は高く、子どもの成長に喜びを感じている。今後も対話できる場を作り、保護者と連携を図っていきたい。 ・職員同士が協力し合い、連携をしっかりとりながら、幼児の発達や保育のねらいを全職員で共有して幼児と関わることができた。 ・コロナ禍で地域との交流はまだ少ないが、職場体験の中学生や同じ地域の保育園じとの交流を通して、いろいろな人に親しみを感じながら関わる機会を持つことができた。 	

2 改善方針

・保護者アンケートの結果や幼児の成長した姿から、今までの取り組みについては一定の評価ができる。今まで取り組んできたことを継承しながら、多文化共生教育をさらに充実させ、多様性を受け止め合える仲間づくりの取り組みを進めていくために、園内外の研修を深め、教職員の意識および資質向上に努めていく。

・コロナ禍で地域との交流が希薄になった状況があるため、地域の学校・園や諸団体と連携しながら幼児にとって意義のある経験となるような活動を検討し、感染症予防に努めながら実施していく。